

1. 階高 8 mの正方形断面柱の一辺の長さを、階高の  $1/12$  とした。（平成25年）
2. 柱が座屈しないことを確認しなかったので、柱の小径を、構造耐力上主要な支点間の距離の  $1/10$  とした。（平成24年）
3. 建築物の使用上の支障が起こらないことを確認しなかったので、梁のせいを、梁の有効長さの  $1/15$  とした。（平成24年）
4. コンクリートの充填性や面外曲げに対する安定性等を考慮して、耐力壁の厚さを、壁板の内法高さの  $1/20$  である150mmとした。（平成24年）
5. 階高 4 mの耐力壁の厚さを、階高の  $1/40$  とした。（平成25年）
6. 一辺が 4 mの正方形床スラブの厚さを、スパンの  $1/25$  とした。（平成25年）
7. 建築物の使用上の支障が起こらないことを確認しなかったので、片持ち以外の床版の厚さを、床版の短辺方向の有効張り間長さの  $1/25$  である200mmとした。（平成24年）
8. 長さ 1.5mのはね出しスラブの厚さを、はね出し長さの  $1/8$  とした。（平成25年）

・地上4階建て、階高4m、スパン6mの普通コンクリートを使用した鉄筋コンクリート造の建築物における部材寸法の設定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、特別な調査・研究によらないものとする。（令和5年）

1. 耐力壁の厚さを、階高の  $1/30$  以上などを満たすように、150mmとした。
2. 正方形断面柱の一辺の長さを、階高の  $1/10$  以上などを満たすように、600mmとした。
3. 短辺4mの長方形床スラブの厚さを、スラブ短辺方向の内法長さの  $1/40$  以上などを満たすように、150mmとした。
4. バルコニーに用いるはね出し長さ2mの片持ちスラブの支持端の厚さを、はね出し長さの  $1/15$  以上などを満たすように、150mmとした。